

ニホンザル被害をふせぐために ～対策～

ニホンザルを理解し、関係者で協力して効果のある対策をしましょう。

1. 集落を餌場にしない

集落で餌が手に入ることを学習すると、農作物に被害が出ます。群れであるため、一度に大きな被害が出る場合があります。さらに、人が怖くないと覚えてしまうと、人家侵入や威嚇等の生活被害が起こるようになります。

2. 人の食べ物がサルを呼ぶ

カキやクリなどの実、傷んだ農作物や生ごみを野外に放置すると、格好の餌場になります。

見通しの悪い林は隠れ場所になり、周辺で被害が出やすくなります。



放棄果樹採食



カキ食痕



トウモロコシ食痕



農地侵入

3. 総合的な対策が効果的

一人で対策をしても、周囲に餌場や隠れ場所があると対策の効果は出にくいです。また、捕獲により頭数が減っても、集落がサルにとって暮らしやすいままだと、被害は減りません。

対策は、できるだけ集落で協力して、組み合わせて行うと効果が出ます。

✓ 餌をなくす

餌になるものを野外からなくし、餌場だと覚えさせない。

✓ 隠れ場所をなくす

藪の刈払いや林縁の見通しを良くし、サルが安心できる場所をなくす。

✓ 守る

防除柵の適正な設置と管理により、農地に入れないようにする。

✓ 追い払う

協力してしつこく追い払い、集落をサルにとって嫌な場所にする。



果樹管理



サル用複合柵

サル被害でお困りの場合は、具体的な対策手法について、お住いの市町村役場の担当課へお問い合わせください。

また、県は、適正にサルを管理するため、福島県ニホンザル管理計画を作成しています。詳しくは、自然保護課ホームページをご確認ください。